第十講・文学的文章⑥

一 題目 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

あたりは、もううすくらくなっていました。よだかは巣から飛び出しました。雲が意地悪く光って、低くたれています。よだかはまるで雲とすれすれになって、音なくそらを飛びまわりました。

それからにわかに①よだかは口を大きくひらいて、はねをまっすぐに張って、まるで矢のようにそらをよこぎりました。小さな羽虫（はむし）が幾（いく）ひきも幾ひきもそののどにはいりました。

からだがつちにつくかつかないうちに、よだかはひらりとまたそらへはねあがりました。もう雲はねずみ色になり、向こうの山には山焼けの火がまっ赤（か）です。

よだかが思い切って飛ぶときは、②そらがまるで二つに切れたように思われます。③一ぴきのかぶと虫が、よだかののどにはいって、ひどくもがきました。よだかはすぐそれをのみこみましたが、その時何だかせなかがぞっとしたように思いました。

雲はもうまっくろく、東の方だけ山焼けの火が赤くうつって、恐（おそ）ろしいようです。よだかはむねがつかえたように思いながら、またそらへのぼりました。

④また一ぴきのかぶと虫が、よだかののどに、はいりました。そしてまるでよだかののどをひっかいてばたばたしました。よだかはそれを無理にのみこんでしまいましたが、その時、急に胸（むね）がどきっとして、よだかは大声をあげて泣き出しました。⑤泣きながらぐるぐるぐるぐるそらをめぐったのです。

（ああ、かぶと虫や、たくさんの羽虫が、毎晩僕（まいばんぼく）に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどはたかに殺される。それがこんなにつらいのだ。ああ、つ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

らい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えて死のう。いやその前にもうたかが僕を殺すだろう。いや、その前に、僕は遠くの遠くのそらの向こうに行ってしまおう。)

　山焼けの火は、だんだん水のように流れてひろがり、雲も赤く燃えているようです。

　よだかはまっすぐに、弟のかわせみの所へ飛んで行きました。きれいなかわせみも、ちょうど起きて遠くの山火事を見ていた所でした。そしてよだかの降りて来たのを見ていいました。

「兄さん。今晩は。何か急のご用ですか。」

「いいや、僕は今度遠い所へ行くからね、その前ちょっとお前にあいにきたよ。」

「兄さん。行っちゃいけませんよ。はちすずめもあんな遠くにいるんですし、僕ひとりぼっちになってしまうじゃありませんか。」

「それはね。どうも仕方ないのだ。もう今日は何もいわないでくれ。そしてお前もね、どうしてもとらなければならない時のほかはいたずらにお魚をとったりしないようにしてくれ。ね、さよなら。」

「兄さん。どうしたんです。⑥まあもうちょっとお待ちなさい。」

「いや、⑦いつまでいてもおんなじだ。はちすずめへ、あとでよろしくいってやってくれ。さよなら。もうあわないよ。さよなら。」

　よだかは泣きながら自分のお家へ帰って参りました。みじかい夏の夜はもうあけかかっていました。

（宮沢賢治『よだかの星』）

問一　——線①「よだかは口を大きくひらいて」とありますが、何のためによだかは口をひらくのですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　速く飛ぶため。

イ　こきゅうをするため。

ウ　大声で泣くため。

エ　えさをとるため。

□

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　――線②「そらがまるで二つに切れたように思われます」とありますが、これはどんなことをたとえた表現ですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　よだかの羽ばたく音のするどさ
イ　よだかの羽ばたきののびやかさ
ウ　よだかの飛ぶ速さ
エ　よだかの飛ぶ高さ

□

問三　――線③「一ぴきのかぶと虫が、よだかののどにはいっ」たときと、――線④「また一ぴきのかぶと虫が、よだかののどに、はいっ」たときの、よだかの行動と気持ちについてまとめた次の表の（　）にあてはまることばを、それぞれ書きなさい。

③		④	
行動	気持ち	行動	気持ち
ひどく（　　）虫を、（　　）のみこんだ。	（　　）ように思った。	よだかののどをひっかいて（　　）虫を、（　　）のみこんだ。	（　　）した。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線⑤「泣きながらぐるぐるぐるぐるそらをめぐったのです」とありますが、このときのよだかの気持ちとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　羽虫やかぶと虫しか食べることができないのが情けなく、残念だ。

イ　生きていくために、他の生き物を殺さなければならないことがつらい。

ウ　飢えて死ぬのならまだしも、たかに殺されるというのは、はらが立ってしかたがない。

エ　かぶと虫にひっかかれたのどが、痛くて痛くてたまらない。

問五　――線⑥「まあもうちょっとお待ちなさい」といったときのかわせみの気持ちを説明した次の文の□にあてはまることばを、文中から書きぬきなさい。

□□□□□□にはなりたくない。

問六　――線⑦「いつまでいてもおんなじだ」とはどういうことですか。最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　どんなにはなれていても、ずっと兄弟は兄弟だということ

イ　たとえ近くにとどまったとしても、もうあうつもりはないということ

ウ　かわせみの家にいても、結局はたかに殺されるということ

エ　いくら引きとめられても、遠くに行く気は変わらないということ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「北の青いお星さま、あなたの所へどうか私（わたくし）を連れてって下さい。」

大熊星（おおくまぼし）はしずかにいいました。

「余計（よけい）なことを考えるものではない。①少し頭をひやして来なさい。そういうときは、氷山の浮（う）いている海の中へ飛び込（こ）むか、近くに海がなかったら、氷をうかべたコップの水の中へ飛び込むのが＊1一等だ。」

よだかは□して、よろよろ落ちて、それからまた、四へんそらをめぐりました。そしてもう一度、東から今のぼった天の川の向こう岸のわしの星に叫（さけ）びました。

「東の白いお星さま、どうか私をあなたの所へ連れてって下さい。焼けて死んでもかまいません。」

わしは＊2大風（おおふう）にいいました。

「いいや、とてもとても、話にも何にもならん。星になるには、それ相応の身分でなくちゃいかん。またよほど金もいるのだ。」

②よだかはもうすっかり力を落としてしまって、はねを閉（と）じて、地に落ちて行きました。そしてもう＊3一（いっ）尺（しゃく）で地面にその弱い足がつくというとき、よだかはにわかにのろしのようにそらへとびあがりました。そらのなかほどへ来て、よだかはまるでわしがくまを襲（おそ）うときするように、ぶるっとからだをゆすって毛をさかだてました。

それからキシキシキシキシキシッと高く高く叫びました。その声はまるでたかでした。野原や林にねむっていたほかのとりは、みんな目をさまして、ぶるぶるふるえながら、③いぶかしそうに星ぞらを見あげました。

よだかは、どこまでも、どこまでも、まっすぐにそらへのぼって行きました。もう山焼けの火はたばこのすいがらのくらいにしか見えません。よだかはのぼってのぼって行きました。

寒さにいきはむねに白くこおりました。空気がうすくなったために、はねをそれはそれはせわしくう

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ごかさなければなりませんでした。

それだのに、星の大きさは、さっきと少しも変わりません。つくいきはふいご*4のようです。寒さや霜(しも)がまるで剣(けん)のようによだかを刺(さ)しました。よだかははねがすっかりしびれてしまいました。そしてなみだぐんだ目をあげてもう一ぺんそらを見ました。そうです。これがよだかの最後でした。もうよだかは落ちているのか、のぼっているのか、さかさになっているのか、上を向いているのかも、わかりませんでした。ただこころもちはやすらかに、その血のついた大きなくちばしは、横にまがってはいましたが、たしかに④少しわらっておりました。

それからしばらくたってよだかははっきりまなこをひらきました。そして自分のからだがいま燐(りん)の火のような青い美しい光になって、しずかに燃(も)えているのを見ました。

すぐとなりは、カシオピア座(ざ)でした。天の川の青じろいひかりが、すぐうしろになっていました。

そしてよだかの⑤星は燃えつづけました。いつまでもいつまでも燃えつづけました。

今でもまだ燃えています。

（宮沢賢治(みやざわけんじ)『よだかの星』）

＊１一等だ＝一番よい。
＊２大風に＝いばった様子で。
＊３一尺＝約三〇・三センチメートル。
＊４ふいご＝火を起こすために風を送る道具。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　［　　］にあてはまることばとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　びっくり　　イ　がっかり
ウ　むっと　　エ　さっぱり

［　　］

問二　――線①「少し頭をひやして来なさい」の意味として最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　もっと元気を出しなさい。
イ　もっと寒さになれておきなさい。
ウ　もっと冷静になりなさい。
エ　もっと行動でしめしなさい。

［　　］

問三　――線②「よだかはもうすっかり力を落としてしまって」とありますが、このよだかが気持ちを切りかえて、気力をふりしぼっている様子がわかることばを三つ、二十二字、四十字、二十一字で、文中からそれぞれさがし、その初めと終わりの四字を書きぬきなさい。（。はふくみません）

［　　　　］～［　　　　］
［　　　　］～［　　　　］
［　　　　］～［　　　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　――線③「いぶかしそうに星ぞらを見あげました」とありますが、とりたちはどんなことを不思議に思っているのですか。とりたちの気持ちとして、最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　どうしてよだかはあんなに無理なことをお願いするのだろう。

イ　どうしてこんな夜にたかが飛んでいるのだろう。

ウ　どうしてよだかが自分たちをおそおうとするのだろう。

エ　どうしてよだかがたかのような声を出すのだろう。

問五　――線④「少しわらっておりました」とありますが、このときのよだかの気持ちを説明したものとして最もよいものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア　目的を果たせず死んでしまうことに心残りはあるものの、それなりに満足した気持ちでいる。

イ　とても星にはなれそうもない自分のことを仕方がないと、あきらめる気持ちでいる。

ウ　そばへ連れて行ってくれない星の心を理解できたことで、安らかな気持ちでいる。

エ　遠い遠い星へのあこがれを持ちつづけながら、すみきった気持ちでいる。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問六　――線⑤「よだかの星は燃えつづけました」とありますが、よだかの星について説明した次の文の□にあてはまることばを、文中からそれぞれ書きぬきなさい。

［　　　　　　］のすぐとなり、［　　　］の前で、燐の火のように青く美しく光りながら、［　　　　］燃えている。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　文学的文章⑥

一題目

問一　エ

問二　ウ

問三　③　〈行動〉　もがく・すぐ
〈気持ち〉せなかがぞっとした

④　〈行動〉　ばたばたする・無理に
〈気持ち〉胸がどきっと

問四　イ

問五　ひとりぼっち

問六　エ

二題目

問一　イ

問二　ウ

問三　・にわかに　～　りました
・まるでわ　～　てました
・キシキシ　～　びました

問四　イ

問五　エ

問六　カシオピア座・天の川・しずかに

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。